

北九州港の姉妹港 タイ王国・レムチャバン港から 研修生が来北しました。

北九州港では、姉妹港であるレムチャバン港との交流事業のひとつとして研修生の相互派遣を行っています。平成4年から始まったこの事業は今回で17回目を数え、参加した研修生は34名になりました。

平成22年度はレムチャバン港から北九州港へ研修生を受入れる年度となり、経理担当責任者であるパンシリ・サイサワンさんと計画部調査・開発課チーフであるポンティパ・タウェヌッチさんが研修生として来北しました。

研修は、11月19日（金）から12月3日（金）まで15日間にわたり、港湾空港局各課による北九州長期構想、水辺のマスタープラン、港湾施設の管理、ポートセールス、物流拠点づくりなどの講義に加え、先進他港や民間企業からもご協力をいただきながら国内の港湾情勢など多岐にわたるプログラムを実施しました。



企業視察

ポンティパさん（中央）とパンシリさん（右）



企業研修

研修の最終日に行った成果発表会で研修員から「研修内容だけではなく“人とのつながり”を大切にしたい」とのコメントをいただきました。

研修期間中の週末には、別府、阿蘇、岩国、宮島など近隣各県を代表する観光地を訪れ、紅葉に染まる美しい風景を楽しんでいただきました。



岩国錦帯橋にて